

学校経営推進費 予算配当申請書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立寝屋川高等学校 全日制・定時制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	1 全定相互協力の行事の実現 2 「いのちのメッセージ展」等学校内外に発信するイベントの実現 3 学校教育自己診断の生徒の「命や人権」にかかわる項目の肯定率向上 4 (全)学校教育自己診断の「自分の考えをまとめ発表」の項目の肯定率向上 5 (定)中途退学率の減少
計画名	寝屋川高校は一つ「いのち・きづなプロジェクト」 ～全日制定時制をつなぎ、そして地域から世界に発信する寝屋川高校～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	【全日制】 2. 21世紀型能力の育成～ 高校卒業後すぐの進路だけでなく将来を見据えた社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する。 (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む。 (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う。 (3) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神のや国際感覚の育成を図る。 (4) 生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させる。 (5) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨 ※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率 (H30 85%) を令和4年度には90%にする。 「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率 (H30 76%) を2021年度に85%にする。 【定時制】 2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える (1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習・探究の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。 ※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率 (H30年度83%) を令和4年度には89%にする。	
	【定時制】 2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える (1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習・探究の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。 ※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率 (H30年度83%) を令和4年度には89%にする。	
事業目標	(食堂フロアを活用した)「絆(きずな)空間」の整備 ～展示・プレゼン・ポスターセッション等の形で、集い発信できる空間の創設～ 本校は全日制・定時制2課程を有する学校であるが、生徒の活動という観点から見れば、まるで異空間であるかのような状況がある。同じ空間で学ぶ高校生としてお互いを認め合いその存在を十分理解できる取組みを進め、身近な存在をしっかりと理解したうえで、全定一体で時には課程ごと地域へそしてグローバルに様々なメッセージを「絆(きずな)空間」を中心に発信していく。まずは寝屋川市が特に大切にしている「いのち」をテーマとした発信をする。 それらの取組みにより、他者を思いやりいのちを大切にすることを育むとともに、コミュニケーション能力を高め他者とつながる「生きる力」を育成しさまざまな世界へ打って出る気概を育てる。	
整備する 設備・物品 (概要)	★寝屋川高校「絆(きずな)空間」の整備 (通用門直近の食堂フロアを整備) ・遮光ロールスクリーン(1)、台形テーブル(20)、スタックチェア(60)、ホワイトボード(4)、大型冷風扇(3)、ペンキ(3)、ペンキローラー(3)、ペンキローラートレイ(2)	
取組 内容 の 概 要	前年度	・全日制定時制がまるで異空間であるかのような状況の問題点について、全定連絡会議を通して課題認識を共有。 ・学園祭相互招待により、教員・生徒が交流することができた。(11月、約40名) ・全日制18:00完全下校を調整により、教室等制限の上在校し勉強できるよう調整。 ・授業におけるプロジェクター使用等について全定合同で研修実施。(11月、参加約50名) ・全定経営戦略会議で、次年度全定合同で学校経営推進費に挑戦することを決定。(3月)
	初年度	・寝屋川高校はひとつ「いのち・きずなプロジェクト」プロジェクトチーム立ち上げ、学校経営推進費に挑戦(4月) ・次年度「いのちのメッセージ展」等実施のための各方面調整開始(6月) ・教職員研修の合同実施(特に生徒理解・教育相談・研修授業)(7月～3月) ・学園祭・体育祭の相互招待。定時制学園祭(11月)に全日制生徒展示・発表で参加。 ・全定とも生徒の発信力強化のための取組み(PPによる発表・プレゼン等の授業の実施)(通年)
	2年め	・プロジェクトチーム主導で「いのちのメッセージ展」開催(地域にも開放)(11月ごろ) ・全定生徒サミットを開催し、全日制学園祭(6月)へ定時制展示等で参加、定時制学園祭(11月)に全日制展示・発表等で参加(次年度以降も) ・教職員全定合同研修の定例化(次年度以降も) ・全定とも生徒発信力強化の取組みの生徒発表の場を設定し、相互に参加できるようにする。(次年度以降も)
	3年め	・プロジェクトチームと全定生徒サミット主導で「いのちのメッセージ展」に続き地域や世界に発信できるイベント「寝屋川高校いのちの空間(仮称)」を寝屋川高校独自で開催 ・全日制学園祭(6月)へ定時制展示等で参加、定時制学園祭(11月)に全日制発表・展示等で参加の継続 ・教職員全定合同研修の定例化(次年度以降も) ・全定とも生徒発信力強化の取組みの生徒発表の場を設定し、相互に参加。その成果を府立学校(特に全定併置校)に向けて報告会等で発信する。(1月)
	取組 内容 の 主 担 ・ 実 施 者	【主 担】寝屋川高校はひとつ「絆プロジェクト」プロジェクトチーム (校長、准校長、全定教頭・首席・生徒指導・人権・学習指導・PTA・地域等各担当者・および有志) 【実施者】全定すべての教職員
成 果 と 評 価 指 標 方 法	初年度	①学園祭・体育祭相互招待等身近なところの交流実施 ②生徒が主体で「いのちのメッセージ展」開催に向けて関係機関と調整の実施 ③学校教育自己診断の「いのちや人権にかかわる項目」の肯定率前年度3%向上 ④(全)学校教育自己診断の「自分の考えをまとめたり発表」の項目の前年度比肯定率3%向上 ⑤(定)中途退学率前年度比3%減少させる
	2年め	①生徒主導で学園祭相互参加の実施、全定生徒サミットの実現 ②「いのちのメッセージ展」開催 ③学校教育自己診断の「入学(学校)満足度」「いのちや人権にかかわる項目」の肯定率前年度3%向上 ④(全)学校教育自己診断の「自分の考えをまとめたり発表」の項目の前年度比肯定率3%向上 ⑤(定)中途退学率前年度比3%減少させる
	3年め	①学園祭相互参加の継続実施、全定生徒サミットの継続 ②「いのちのメッセージ展」に続きイベントとして寝屋川高校独自内容の「寝屋川高校いのちの空間(仮称)」を全生徒サミット主導で開催 ③学校教育自己診断の「入学(学校)満足度」「いのちや人権にかかわる項目」の肯定率前年度3%向上 ④(全)学校教育自己診断の「自分の考えをまとめたり発表」の項目の前年度比肯定率3%向上 ⑤(定)中途退学率前年度比3%減少させる

3. 事業費

事業費総額	2,164,906	円
-------	-----------	---

積算内訳

*決算科目(節)を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1							
	2							
	3							
	小計							0
2 旅費	1							
	2							
	3							
	小計							0
3 消耗需用費	1	遮光スクリーン				¥329,890	1	¥329,890
	2	台形テーブル				¥51,824	20	¥1,036,476
	3	スタックチェア				¥6,048	60	¥362,880
	4	ホワイトボード				¥16,500	4	¥66,000
	5	大型冷風扇				¥40,500	3	¥121,500
	6	台形テーブル				¥52,690	4	¥210,760
	7	スタックチェア				¥7,480	5	¥37,400
	小計							¥2,164,906
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
	小計							0
5 役務費	1							
	2							
	3							
	小計							0
6 委託料	1							
	2							
	3							
	小計							0
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
	小計							0
8 備品購入費	1							
	2							
	3							
	小計							0
9 工事請負費	1							
	2							
	3							
	小計							0
10 負担金・補助 及び交付金	1							
	2							
	3							
	小計							0
合計							¥2,164,906	